

平成30年度供給計画の 取りまとめの更新について

2018年9月4日

電力需給見通しの更新・公表について

2

- 平成30年度供給計画の取りまとめにおいては、2021年度の8月17時断面において予備率8%を確保できないこととなったため、今後の原子力発電の再稼働による変更供給計画の届出や、それに伴う需給バランス状況を注視し、適宜、継続的にバランス評価を行うこととしていた。
- この度、関西エリア・九州エリアにおける原子力発電の再稼働等による変更供給計画が提出されたため、最新のデータに基づいて電力需給見通しを更新し、公表する。

※以下は2017年度第5回評議員会資料(2018年3月29日開催)における「平成30年度供給計画の取りまとめについて」の需給バランスに関するデータの変更箇所を記載

(広域機関ホームページURL)

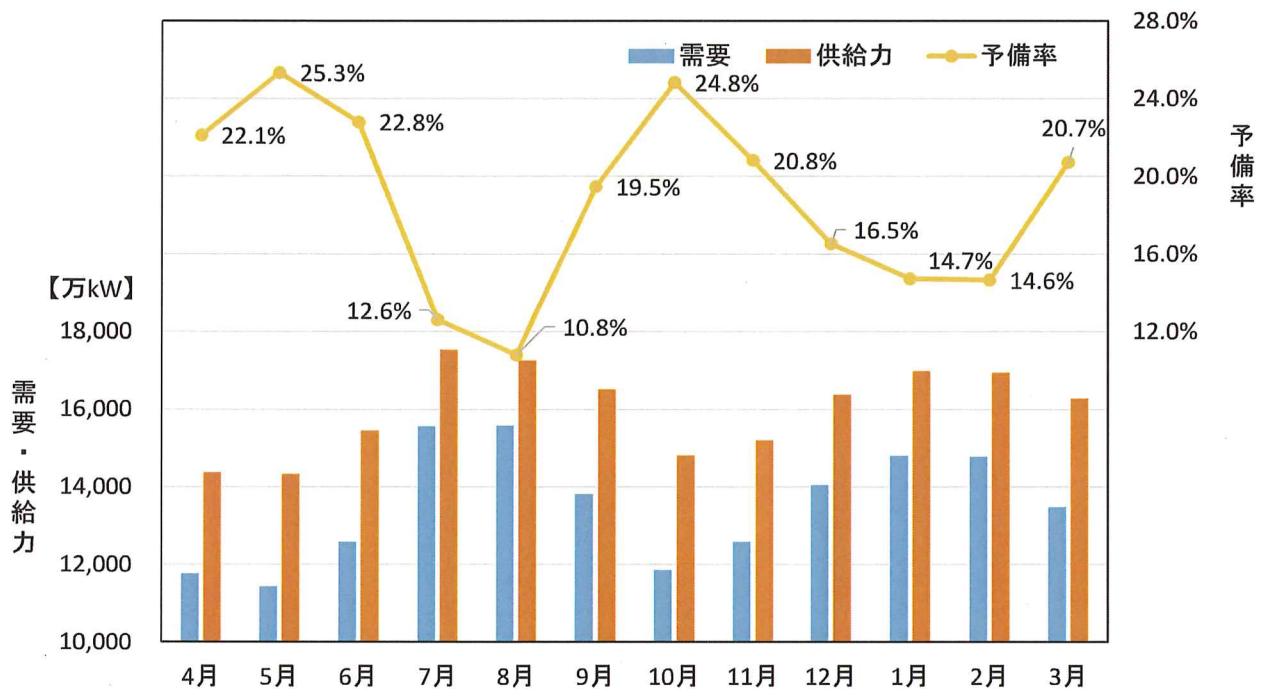
平成30年度供給計画の取りまとめ及び経済産業大臣への送付について

(参考)2017年度第5回評議員会資料(2018年3月29日開催)

http://www.occto.or.jp/kyoukei/torimatome/20180330_kyokyukeikaku_torimatome.html

- 2018年度の月ごとの需要と供給力(全国合計)※の見通しを下図に示す。全国大では、最も予備率が低い8月で10.8%であり、通年において8%以上となっている。

※各エリアの最小予備率断面の需要と供給力を全国合計したもの



4-2-4. 需給バランス評価(短期:2018年度月別)各月の最少予備率

- 2018年度における各エリアの月ごとの予備率(エリア・月毎の予備率最小時刻での値)は下表のとおり。ほとんどのエリアで予備率8%以上を確保できているが、東北、東京、四国、九州エリアでは、一部の月において予備率8%を下回っている。
- 沖縄エリアについて、最大電源ユニット脱落時に「周波数制御機能あり調整力」を除いた場合の予備率を算出した結果、いずれの月も予備率が0%以上(供給力 $\geq$ H3需要)となる見通しである。

2018年度月毎の予備率

赤セル: 予備率が8%未満のエリア・月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道	23.8%	34.7%	35.5%	23.5%	25.2%	26.5%	28.6%	28.8%	20.1%	19.3%	19.1%	32.2%
東北	9.8%	19.6%	18.0%	13.4%	12.6%	14.4%	12.3%	6.2%	5.8%	10.1%	6.4%	5.7%
東京	20.7%	29.5%	20.0%	6.8%	6.5%	16.6%	25.6%	17.8%	12.8%	11.3%	10.4%	17.1%
東日本 3社計	18.8%	28.0%	20.6%	9.0%	8.7%	16.9%	23.1%	16.3%	11.9%	11.7%	10.2%	15.9%
中部	19.1%	15.7%	14.0%	8.1%	8.1%	17.6%	11.8%	13.4%	10.2%	9.8%	12.3%	17.9%
北陸	12.7%	31.1%	11.8%	14.8%	12.2%	10.3%	16.6%	11.0%	13.1%	12.8%	13.0%	10.8%
関西	34.6%	33.8%	38.3%	20.8%	18.1%	26.8%	41.5%	41.0%	38.1%	29.9%	30.8%	39.5%
中国	28.7%	19.6%	31.2%	19.3%	19.8%	36.6%	27.5%	20.7%	25.2%	20.2%	19.2%	25.9%
四国	11.7%	15.5%	16.4%	7.1%	9.5%	10.5%	19.3%	14.1%	12.6%	14.5%	14.9%	8.2%
九州	20.5%	17.9%	19.3%	17.0%	3.7%	14.6%	28.9%	24.3%	7.2%	5.5%	5.7%	18.2%
中西日本 6社計	24.4%	22.9%	24.3%	15.2%	12.1%	21.2%	25.9%	24.3%	19.8%	16.7%	17.6%	24.2%
9社合計	21.8%	25.1%	22.7%	12.4%	10.6%	19.3%	24.6%	20.6%	16.3%	14.4%	14.3%	20.4%
沖縄	56.4%	43.1%	35.9%	37.0%	36.3%	39.4%	42.5%	48.6%	52.6%	58.1%	68.0%	60.8%
10社合計	22.1%	25.3%	22.8%	12.6%	10.8%	19.5%	24.8%	20.8%	16.5%	14.7%	14.6%	20.7%

最大電源ユニット(24.4万kW)脱落時に周波数制御機能あり調整力(5.7万kW)を除いた場合の予備率を算出

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
沖縄	27.8%	18.5%	14.1%	16.3%	15.7%	18.1%	18.5%	20.9%	22.5%	28.8%	38.8%	30.1%

- 地域間連系線を活用して、予備率が高いエリアから低いエリアへ、各エリアの予備率が均平化するように連系線の空き容量の範囲内で供給力を振り替えた※。その結果、すべてのエリア・年度で予備率8%以上を確保できる見通しとなった。

※連系線活用において、各エリアの評価時刻は異なるが、各エリアを予備率最小時刻で評価した中で他エリアへ振替できる量を算定しているため、振替可能量は、評価時刻を合わせた結果よりも少なくなり、安全サイドの評価(予備率が少なく見積もられる評価)となっている。

2018年度 各エリアの月毎の予備率(連系線活用後)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道	19.3%	26.3%	31.5%	20.0%	21.8%	23.1%	23.8%	19.3%	12.5%	12.1%	10.7%	23.2%
東北	19.3%	26.3%	20.4%	8.6%	8.2%	16.8%	23.8%	16.2%	12.5%	12.1%	10.7%	16.0%
東京	19.3%	26.3%	20.4%	8.6%	8.2%	16.8%	23.8%	16.2%	12.5%	12.1%	10.7%	16.0%
中部	23.9%	24.2%	23.9%	15.3%	11.8%	21.3%	24.0%	24.1%	19.4%	16.3%	17.2%	23.7%
北陸	23.9%	24.2%	23.9%	15.3%	11.8%	21.3%	24.6%	24.1%	19.4%	16.3%	17.2%	23.7%
関西	23.9%	24.2%	23.9%	15.3%	11.8%	21.3%	26.0%	24.1%	19.4%	16.3%	17.2%	23.7%
中国	23.9%	24.2%	23.9%	15.3%	11.8%	21.3%	26.0%	24.1%	19.4%	16.3%	17.2%	23.7%
四国	23.9%	24.2%	23.9%	15.3%	11.8%	21.3%	26.0%	24.1%	19.4%	16.3%	17.2%	23.7%
九州	23.9%	24.2%	23.9%	15.3%	11.8%	21.3%	26.0%	24.1%	19.4%	16.3%	17.2%	23.7%
9社合計	21.8%	25.1%	22.7%	12.7%	10.6%	19.7%	24.6%	20.6%	16.3%	14.4%	14.3%	20.4%
沖縄	56.4%	43.1%	35.9%	37.0%	36.3%	39.4%	42.5%	48.6%	52.6%	58.1%	68.0%	60.8%
10社合計	22.1%	25.3%	22.8%	12.9%	10.8%	19.9%	24.8%	20.8%	16.5%	14.7%	14.6%	20.7%

(注)本検討は、地域間連系線の空き容量の範囲内で供給力を振り替えた。空容量の算出は以下の式を使用した。

●空容量＝①(運用容量)－②(マージン)－③(8月15時断面の連系線計画潮流値)

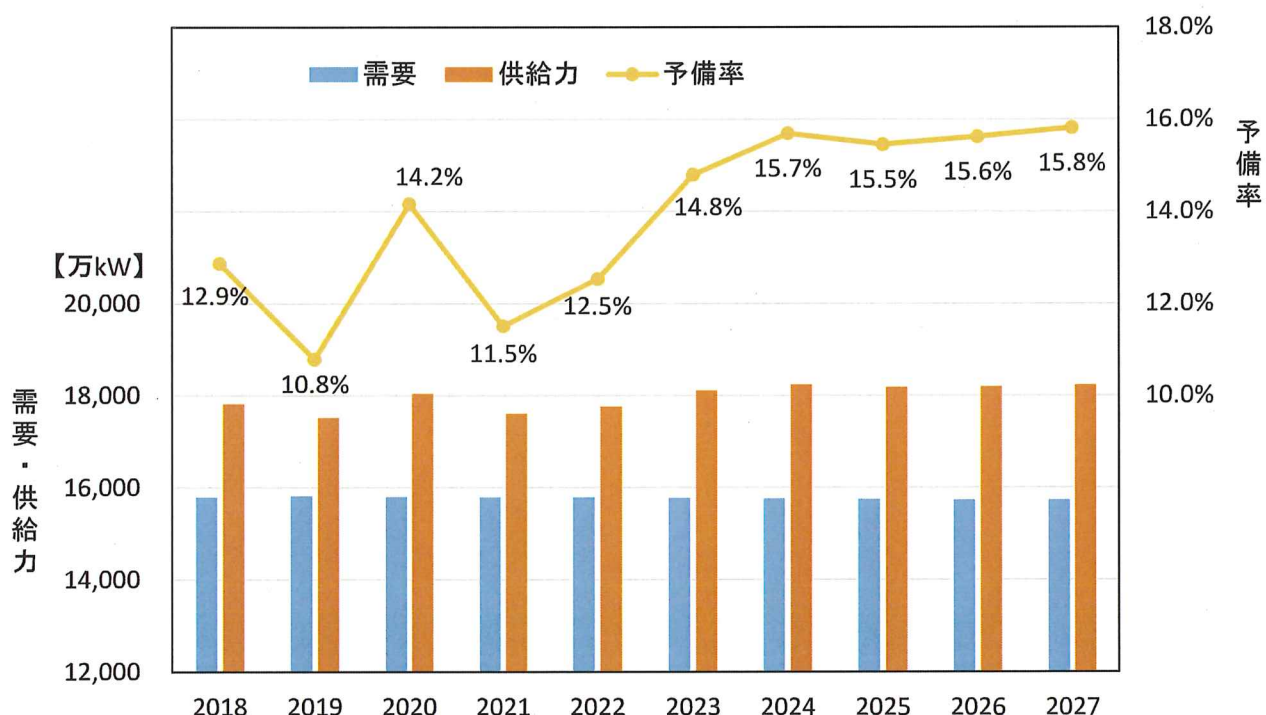
①:「2018～2027年度の連系線の運用容量(年間計画・長期計画)(2018年3月1日;本機関)」の2018年度の平日・昼間帯の値

②:「2018・2019年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画)(2018年3月1日;本機関)」の2018年度平日の値

③:平成30年度供給計画届出書の「電気取引に関する計画書(様式第36表)」に記載されている当該連系線を使用する月毎の計画潮流値

4-2-6. 需給バランス評価(長期:2018～2027年度8月)

- 2018年度から2027年度までの需要と供給力(8月15時・全国合計)の見通しを参考に下図に示す。全国大では、最も予備率が低い2019年度でも10.8%と、いずれの年においても8%以上となっている。



4-2-6. 需給バランス評価(長期:2018~2027年度) 8月15時の予備率

7

- 長期(2018年度から2027年度まで)の各エリア8月15時の予備率は以下のとおり。
東京、中部、四国、九州エリアで予備率8%を下回っている年度が複数ある。

2018~2027年度(夏季:8月15時)の予備率

赤セル:予備率が8%未満のエリア・年度

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
北海道	26.9%	23.5%	41.3%	40.0%	41.6%	41.8%	41.7%	42.0%	41.6%	52.5%
東北	14.9%	13.3%	19.0%	16.8%	17.7%	18.7%	19.6%	20.7%	21.2%	24.3%
東京	6.5%	6.8%	8.8%	5.7%	4.8%	9.3%	14.6%	14.7%	14.7%	13.6%
東日本 3社計	9.3%	9.0%	12.6%	9.8%	9.4%	13.0%	17.1%	17.4%	17.5%	17.9%
中部	8.3%	8.1%	6.3%	6.2%	9.7%	7.3%	4.4%	4.7%	5.1%	5.3%
北陸	12.2%	14.0%	12.5%	12.2%	12.3%	12.3%	12.4%	11.4%	11.5%	11.6%
関西	20.4%	19.5%	18.3%	11.7%	14.6%	17.6%	17.3%	14.6%	16.0%	16.3%
中国	21.9%	10.5%	18.2%	16.7%	18.5%	22.0%	22.1%	22.3%	22.5%	22.1%
四国	9.5%	6.7%	13.3%	3.6%	1.1%	10.8%	11.1%	11.3%	11.8%	12.1%
九州	16.8%	6.5%	21.8%	23.0%	24.6%	25.1%	19.7%	20.0%	18.3%	18.4%
中西日本 6社計	15.3%	11.8%	14.9%	12.3%	14.5%	15.9%	14.0%	13.3%	13.6%	13.8%
9社合計	12.6%	10.5%	13.8%	11.2%	12.2%	14.6%	15.4%	15.2%	15.3%	15.6%
沖縄	41.6%	40.2%	48.1%	47.5%	46.8%	38.4%	45.5%	44.5%	43.3%	34.9%
10社合計	12.9%	10.8%	14.2%	11.5%	12.5%	14.8%	15.7%	15.5%	15.6%	15.8%

4-2-6. 需給バランス評価(長期:2018~2027年度) 8月17時の予備率

8

- 長期(2018年度から2027年度まで)の各エリア8月17時の予備率は以下のとおり。
東京、中部、四国、九州エリアで予備率8%を下回っている年度が15時に比べて多くなることがわかる。

2018~2027年度(夏季:8月17時)の予備率

赤セル:予備率が8%未満のエリア・年度

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
北海道	25.2%	21.6%	39.0%	37.5%	39.2%	39.4%	39.3%	39.5%	39.2%	50.1%
東北	12.6%	10.3%	15.6%	12.9%	13.5%	14.1%	14.6%	15.4%	15.5%	18.2%
東京	6.7%	7.0%	9.1%	5.9%	5.0%	9.6%	15.0%	15.2%	15.1%	14.1%
東日本 3社計	8.9%	8.5%	12.1%	9.1%	8.7%	12.3%	16.4%	16.7%	16.7%	17.1%
中部	8.1%	7.4%	5.3%	5.0%	8.4%	5.9%	2.9%	3.2%	3.6%	3.8%
北陸	14.7%	15.7%	13.9%	13.2%	13.0%	12.9%	12.8%	11.5%	11.4%	11.3%
関西	17.8%	16.6%	15.1%	8.3%	11.1%	14.1%	13.7%	10.9%	12.2%	12.5%
中国	19.8%	9.1%	17.9%	13.9%	14.6%	17.8%	17.7%	17.7%	17.8%	17.3%
四国	9.5%	6.7%	12.8%	2.5%	-0.3%	9.3%	9.3%	9.3%	9.6%	9.7%
九州	8.0%	3.4%	12.9%	13.7%	15.0%	15.4%	10.2%	10.4%	8.8%	8.9%
中西日本 6社計	12.9%	10.1%	12.1%	9.0%	10.9%	12.1%	10.2%	9.4%	9.6%	9.7%
9社合計	11.1%	9.4%	12.1%	9.0%	9.9%	12.2%	13.0%	12.7%	12.8%	13.0%
沖縄	38.6%	36.8%	44.6%	43.7%	42.8%	34.1%	41.1%	40.1%	38.9%	30.5%
10社合計	11.4%	9.6%	12.4%	9.4%	10.2%	12.4%	13.3%	12.9%	13.1%	13.2%

4-2-6. 需給バランス評価(長期:2018～2027年度) 8月19時・20時の予備率 9

- 長期(2018年度から2027年度まで)の各エリア8月19時の予備率は以下のとおり。東京、中部、四国、九州エリアで予備率8%を下回っている年度がかなりあることがわかる。
- 沖縄エリアは予備率最小時刻が8月20時であり、最大電源ユニット脱落時に「周波数制御機能あり調整力」を除いた場合の予備率は全年度で0%以上(供給力≥H3需要)となる見通しである。

2018～2027年度(夏季:8月19時)の予備率

赤セル:予備率が8%未満のエリア・年度

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
北海道	27.0%	23.2%	40.7%	39.2%	40.9%	41.1%	41.0%	41.3%	40.9%	52.0%
東北	19.2%	16.3%	21.7%	18.6%	19.0%	19.5%	19.9%	20.5%	20.4%	23.1%
東京	7.1%	7.4%	9.6%	6.2%	5.3%	10.2%	15.8%	16.0%	16.0%	14.8%
東日本 3社計	10.5%	10.0%	13.7%	10.5%	10.0%	13.8%	18.2%	18.4%	18.4%	18.7%
中部	9.3%	9.2%	7.1%	7.0%	10.9%	8.2%	5.0%	5.3%	5.7%	6.0%
北陸	28.6%	33.6%	27.1%	26.1%	25.9%	25.7%	25.4%	24.0%	23.8%	23.6%
関西	22.6%	21.0%	19.3%	12.1%	15.0%	18.1%	17.7%	14.6%	16.0%	16.2%
中国	22.2%	10.8%	18.3%	15.4%	15.8%	19.1%	18.9%	18.7%	18.7%	18.1%
四国	9.5%	6.7%	13.3%	3.6%	0.3%	10.5%	10.3%	10.2%	10.5%	10.5%
九州	3.7%	-2.0%	7.0%	7.1%	7.5%	7.4%	1.6%	1.6%	-0.2%	-0.3%
中西日本 6社計	15.0%	12.1%	13.6%	10.5%	12.3%	13.5%	11.3%	10.4%	10.6%	10.6%
9社合計	13.0%	11.2%	13.7%	10.5%	11.3%	13.6%	14.4%	14.0%	14.1%	14.3%
沖縄	41.8%	39.8%	47.7%	46.7%	45.5%	36.4%	43.5%	42.5%	41.3%	32.5%
10社合計	13.3%	11.5%	14.0%	10.9%	11.6%	13.9%	14.7%	14.3%	14.4%	14.5%

2018～2027年度(夏季:8月20時)の予備率

下表は最大電源ユニット(24.4万kW)脱落時に周波数制御機能あり調整力(5.7万kW)を除いた場合の予備率を表示

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
沖縄	15.7%	13.9%	21.5%	20.7%	19.7%	11.1%	18.0%	17.2%	16.2%	7.9%

4-2-7. 需給バランス評価(長期:2018～2027年度)～連系線活用後～ 10

- 各エリアで8月の予備率が最小となる各時刻(15時、17時、19時)において、予備率が高いエリアから低いエリアへ、各エリアの予備率が均平化するように連系線の空き容量の範囲内で供給力を振り替えて評価した。
- 8月15時の結果は下表のとおり。すべてのエリア・年度で予備率8%以上を確保できる見通しとなった。

2018～2027年度(8月15時)予備率(連系線活用後)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
北海道	23.5%	12.8%	30.7%	30.5%	31.2%	31.4%	31.3%	31.6%	31.3%	42.2%
東北	8.7%	8.9%	11.8%	9.7%	9.3%	13.1%	14.9%	14.6%	14.9%	14.9%
東京	8.7%	8.9%	11.8%	9.7%	9.3%	13.1%	14.9%	14.6%	14.9%	14.9%
中部	15.1%	11.7%	13.9%	9.7%	12.0%	13.2%	14.9%	14.6%	14.9%	14.9%
北陸	15.1%	11.7%	13.9%	9.7%	12.0%	13.7%	14.9%	14.6%	14.9%	14.9%
関西	15.1%	11.7%	13.9%	9.7%	12.0%	13.7%	14.9%	14.6%	14.9%	14.9%
中国	15.1%	11.7%	13.9%	9.7%	12.0%	13.7%	14.9%	14.6%	14.9%	14.9%
四国	15.1%	11.7%	13.9%	9.7%	12.0%	13.7%	14.9%	14.6%	14.9%	14.9%
九州	15.1%	11.7%	17.9%	18.9%	20.5%	21.1%	15.6%	15.9%	14.9%	14.9%
9社合計	12.6%	10.5%	13.8%	11.2%	12.2%	14.6%	15.4%	15.2%	15.3%	15.6%
沖縄	41.6%	40.2%	48.1%	47.5%	46.8%	38.4%	45.5%	44.5%	43.3%	34.9%
10社合計	12.9%	10.8%	14.2%	11.5%	12.5%	14.8%	15.7%	15.5%	15.6%	15.8%

(注)本検討は、地域間連系線の空き容量の範囲内で供給力を振り替えた。空容量の算出は以下の式を使用した。

●空容量=①(運用容量)－②(マージン)－③(8月15時断面の連系線計画潮流値)

①:「2018～2027年度の連系線の運用容量(年間計画・長期計画)(2018年3月1日;本機関)」の2018年度・2019年度の平日・昼間帯の値、2020～2027年度(長期計画)の値

②:「2018・2019年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(年間計画)(2018年3月1日;本機関)」の2018年度・2019年度平日の値、「2020～2027年度の予備力・調整力及び潮流抑制のためのマージン(長期計画)(2018年3月1日;本機関)」の値

③:平成30年度供給計画届出書の「電気の取引に関する計画書(様式第32第8表)」に記載されている年毎の8月15時断面の計画潮流値

- **8月17時**の結果は下表のとおり。すべてのエリア・年度で予備率8%以上を確保できる見通しとなった。

2018~2027年度(8月17時)予備率(連系線活用後)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
北海道	21.8%	10.9%	28.3%	28.1%	28.8%	29.0%	28.9%	29.2%	28.9%	39.8%
東北	8.4%	8.5%	11.3%	8.4%	8.7%	11.7%	12.8%	13.0%	13.0%	12.9%
東京	8.4%	8.5%	11.3%	8.4%	8.7%	11.7%	12.8%	13.0%	13.0%	12.9%
中部	12.6%	10.0%	11.8%	8.4%	9.7%	11.7%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
北陸	12.6%	10.0%	11.8%	8.4%	9.7%	11.7%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
関西	12.6%	10.0%	11.8%	8.4%	9.7%	11.7%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
中国	12.6%	10.0%	11.8%	8.4%	9.7%	11.7%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
四国	12.6%	10.0%	11.8%	8.4%	9.7%	11.7%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
九州	12.6%	10.0%	11.8%	9.6%	10.9%	11.7%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
9社合計	11.1%	9.4%	12.1%	9.0%	9.9%	12.2%	13.0%	12.7%	12.8%	13.0%
沖縄	38.6%	36.8%	44.6%	43.7%	42.8%	34.1%	41.1%	40.1%	38.9%	30.5%
10社合計	11.4%	9.6%	12.4%	9.4%	10.2%	12.4%	13.3%	12.9%	13.1%	13.2%

- **8月19時**の結果は下表のとおり。すべてのエリア・年度で予備率8%以上を確保している。

2018~2027年度(8月19時)予備率(連系線活用後)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
北海道	23.5%	12.2%	29.9%	29.5%	30.3%	30.6%	30.5%	30.7%	30.4%	41.5%
東北	10.0%	10.0%	13.0%	9.9%	10.1%	13.1%	14.3%	14.5%	14.5%	14.3%
東京	10.0%	10.0%	13.0%	9.9%	10.1%	13.1%	14.3%	14.5%	14.5%	14.3%
中部	14.7%	12.0%	13.4%	9.9%	11.2%	13.1%	13.7%	12.7%	12.9%	12.8%
北陸	14.7%	12.0%	13.4%	9.9%	11.2%	13.1%	13.7%	12.7%	12.9%	12.8%
関西	14.7%	12.0%	13.4%	9.9%	11.2%	13.1%	13.7%	12.7%	12.9%	12.8%
中国	14.7%	12.0%	13.4%	9.9%	11.2%	13.1%	13.7%	12.7%	12.9%	12.8%
四国	14.7%	12.0%	13.4%	9.9%	11.2%	13.1%	13.7%	12.7%	12.9%	12.8%
九州	14.7%	12.0%	13.4%	9.9%	11.2%	13.1%	13.7%	12.7%	12.9%	12.8%
9社合計	13.0%	11.2%	13.7%	10.5%	11.3%	13.6%	14.4%	14.0%	14.1%	14.3%
沖縄	41.8%	39.8%	47.7%	46.7%	45.5%	36.4%	43.5%	42.5%	41.3%	32.5%
10社合計	13.3%	11.5%	14.0%	10.9%	11.6%	13.9%	14.7%	14.3%	14.4%	14.5%

- 環境影響評価公表情報(環境影響評価方法書提出済みの案件。以下のウェブサイトに掲載。)に記載の電源開発計画のうち、**供給計画に未計上の電源は全国で約1,170万kWあり**、そのうち、事業者が電源開発の最終意思決定を行い、開発に着手しているものが、幾分はあると考えられる。
火力発電所環境アセスメント情報(METIウェブサイト)

http://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/sangyo/electric/detail/thermal.html

- そこで、供給計画に未計上の電源で、一般送配電事業者に系統アクセス契約申込みがなされ、更に、**電気事業法第48条(工事計画)の届出がなされている電源を、国の協力を得て調査した。**
- その結果、全国で105万kWの電源があることがわかり、これら電源を供給力として計上した。以下に、長期8月17時断面での予備率を試算した結果を示す。

工事計画書届出済電源の設置エリア	供給力	供給力計上時期
北海道エリア	10万kW	2020年8月～
東北エリア	95万kW	2021年8月～

2018～2027年度(8月17時)予備率(連系線活用後 & 工事計画書提出電源加算後)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
北海道	21.8%	10.9%	30.7%	30.4%	31.1%	31.4%	31.3%	31.6%	31.3%	42.1%
東北	8.4%	8.5%	11.3%	9.1%	9.9%	12.4%	14.2%	14.5%	14.5%	14.4%
東京	8.4%	8.5%	11.3%	9.1%	9.9%	12.4%	14.2%	14.5%	14.5%	14.4%
中部	12.6%	10.0%	11.8%	9.1%	9.9%	12.4%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
北陸	12.6%	10.0%	11.8%	9.1%	9.9%	12.4%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
関西	12.6%	10.0%	11.8%	9.1%	9.9%	12.4%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
中国	12.6%	10.0%	11.8%	9.1%	9.9%	12.4%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
四国	12.6%	10.0%	11.8%	9.1%	9.9%	12.4%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
九州	12.6%	10.0%	11.8%	9.6%	10.9%	12.4%	12.4%	11.6%	11.8%	11.8%
9社合計	11.1%	9.4%	12.1%	9.7%	10.6%	12.9%	13.7%	13.4%	13.5%	13.7%
沖縄	38.6%	36.8%	44.6%	43.7%	42.8%	34.1%	41.1%	40.1%	38.9%	30.5%
10社合計	11.4%	9.6%	12.5%	10.1%	10.9%	13.1%	13.9%	13.6%	13.7%	13.9%

4-2-10. 需給バランス評価のまとめ

- **短期(2018年度)の需給バランス評価**
 - すべてのエリア・月において、安定供給の基準とする予備率8%を確保できる見通し。
- **中長期(2019年度～2027年度)の需給バランス評価**
 - すべてのエリア・時間帯において、安定供給の基準とする予備率8%を確保できる見通し。
 - 今後とも、変更供給計画の届出や、それに伴う需給バランス状況を注視し、適宜、継続的にバランス評価を行う。

以 上

